

論文の内容の要旨

論文題目 アメリカ二大政党制の確立―再建期における戦後体制の形成と共和党―

氏 名 岡 山 裕

アメリカ合衆国の政党政治は、19 世紀半ば以来特定の2政党が政党制の主要政党であり続けているという、世界的に見て類例のない特徴を持つ。本論文はそれが生み出されたことを二大政党制の「確立」と呼んで、その要因と過程を、南北戦争後の再建期を対象にした歴史分析を通じて明らかにした。それはこの時期、共和党と民主党の二大政党制が成立後最大の試練を経験したとみられるため、その克服過程の検討が二大政党制の確立の要因を解明するのに不可欠だからである。

南北戦争後 19 世紀末にかけて、共和党は安定的に多数派の地位を占めたとされてきた。しかし同党は、南北戦争を通じて奴隷制の廃止や連邦の再統一という目的を達成したがために、戦後党の方針をめぐって深刻な分裂を抱えるようになった。ここでは、共和党の多数派の地位を自明視せず、それがいくつかの危機を乗り越えて初めて維持されえたという見方に立っている。再建期については、後の時期との断絶が強調がちだが、以上からは、この危機が克服されるなかで戦後の政治体制が形成されたと考えられる。本論文の中核は、第三党をも交えて競争的な政党制の展開した北部における、共和党を軸とした政党政治についての歴史分析である。

以上の問題関心を明らかにした序章に続き、第1章では二大政党制の確立に関する先行研究の見解とその限界を提示し、本論文の分析枠組と主張を明らかにした。二大政党制の確立は、主要政党の入れかわりや多党制化が生じなくなることと言い換えられる。従来は、第三党に不利に働く小選挙区制と、選挙への立候補制限に代表される、20 世紀に導入された第三党に不利な選挙制度の効果が強調されてきた。しかし、19 世紀に後者は存在せず、小選挙区制の影響についても限界が指摘されている。

ところが、アメリカの政党制の変化について支配的な地位を占めてきた政党再編成論は、以上の説明を受け入れており、そのため再検討が必要となる。そこでは、既存の政党間対立軸を横断するような対立軸を持つ争点が重要化して、政党制の変化につながるとされてきた。しかし、政党再編成と呼ばれる約30年に一度の大規模な政治連合の組み換え以外は、有権者の強固な政党帰属意識に従って選挙結果が決まると考えられている。つまり政党制の安定期については一種の無風状態が想定されてきたのである。再建期は、第3次政党制を成立させた再編成期から安定期への移行期とされているが、安定期に関するこのような静態的な見方はやや非現実的であろう。

それに対して、ここでは政党制の不安定化要因として特定の政治争点を想定しつつ、それらが安定期にも政党制を変化させようとし、にもかかわらず、それに対抗する安定化要因が働いて政党制の安定が動的に再生産されるという、新しい説明を提示した。そしてその安定化要因として、19世紀の政党政治が持っていた2つの構造的な特徴に着目した。第1は、連邦レベル争点の州レベル争点に対する優位である。当時の主要政党指導者は、多くの場合州レベルの争点よりも、連邦レベルの争点に重きを置いて行動した。ある州レベル争点について党の方針に不満があっても党の団結を維持すべく妥協し、選挙でも州レベル争点より連邦レベルの争点を強調したため、州レベル争点が党の支持者を分裂させる程度は限定されていたとみられるのである。

もう1つの特徴は、各州内の政党政治が持っていた高い自律性である。19世紀当時、各州の党組織は州レベルのみならず連邦レベルの争点についても、州毎に自律的に独自の立場を示すのが普通だった。その結果、主要政党は各州内の党指導者や有権者の選好に即して態度を決められたため、全国で一律の立場を表明する場合に比して、党や支持者の分裂する度合いが小さかったのである。本論文では、政党制を不安定化するような争点への主要政党の対応がこれらの特徴に根ざしており、それが二大政党制の確立につながったという見解をとる。ただし、それだけで政治争点の不安定化作用の影響が完全に殺されるとまで考えられるわけではない。そこで歴史分析にあたっては、それ以外の要因も含めつつ、具体的にいかなるプロセスを通じて戦後体制が生み出されていったのかを解明した。

歴史分析の最初の2章では、南北戦争の戦後処理をめぐるいわゆる南部再建の争点が政党制に与えた影響とそれへの主要政党の対応を検討した。従来南部再建については、共和党の民主党に対する圧倒的優位を前提にして、連邦政府对南部という図式で連邦議会を中心とする政策形成過程が分析されてきた。本論文ではそれに対して、共和党が内戦を通じてその所期の目的を達したため、政党制の変化に向けた気運が生まれ、また再建政策が共和党を深刻に分裂させたのが政党制の流動化につながったことを示した。なかでも、南部連合の支配層の影響力復活を阻止する有力策とみられた、黒人(男性)への選挙権付与をめぐる政治過程を集中的に分析した。というのも、当時は北部でも大半の州で黒人は選挙権を持たず、共和党支持者も強い人種偏見を持っており、選挙権付与への反対派が離反

する恐れもあったためである。

第2章では、終戦後の約1年半について、南部再建をめぐる共和党の危機が顕在化していく過程を検討した。まず党指導者のレベルでは、暗殺されたリンカン大統領の跡を襲って大統領となったジョンソンが共和党と対立するようになった。そこで終戦の翌年にかけて、彼を中心に結集した共和党内の保守派指導者が、南部占領の即時終結を訴えて新党の結成と政党再編を目指した、ナショナル・ユニオン運動の展開とその挫折の要因を明らかにした。一方有権者レベルについては、支持者を分裂させる黒人選挙権の争点が重要化するのを恐れた共和党指導者が、当初それを避けようとしたにもかかわらず、南部の不服従にあつて黒人に選挙権を付与せざるをえない状況に追いこまれていった過程を解明した。

この争点は、連邦レベルでありしかも共和党のみが内部分裂を抱えたため、19世紀の政党政治の構造的特徴によってもその影響が減殺されにくかったと考えられる。1867年にかけて黒人選挙権を支持するようになった共和党は、選挙で後退していき、南部再建をめぐる危機が深刻化していった。本論文では、にもかかわらず同党が多数派としての地位を維持できた要因を、1868年末からの連邦議会で発議された、人種による選挙権の差別を禁じた合衆国憲法第15修正に求めた。第3章では共和党が、黒人選挙権を全国的に導入することで、この厄介な争点を非政治化するという賭けに出、一定の犠牲を伴いながらもそれに勝った、という主張を提示した。従来は、南部諸州の再建策を定めた1867年の再建法が南部再建の区切りとされてきたのに対し、本論文では憲法第15修正が成立し、黒人選挙権をめぐる共和党の危機が解消した1870年が最大の画期だったという、新しい再建期観を示した。

しかし、南部再建の解消によって政党制が安定をみたわけではない。終戦後、政党間対立軸と直接関わりを持たない、その他の政治争点が徐々に重要化していったため、政党制の不安定化する可能性がむしろ高まったと考えられる。本論文ではこれらの争点を平時の争点と総称し、それらについて特定の立場を掲げる、二大政党内外の諸勢力による政党制の挑戦が、19世紀の政党政治の特徴に根ざした主要政党の対応によっていかに克服されていったのかを解明した。1870年代半ば以降は、主要政党の政治家が政策を省みず党組織の発展に奔走した、腐敗した時期とされてきた。本論文ではそれに対して、平時の争点とそれに伴う危機をめぐる政治過程において、政党制に挑戦した諸勢力がいずれも社会改革を目標に掲げていた点に着目し、この時期の政治が「改革の政治」という特徴を帯びていた点を明らかにした。

第4章では、「改革の政治」とその特徴を概観したうえで、古典的自由主義に基づく連邦政府の行財政改革を目指す共和党内の勢力が、1870年代初頭にかけて当時のグラント政権と対立するようになり、1872年の選挙で第三党を結成して政党制に挑戦するまでを分析した。第三党化する過程で統制を失い半ば自壊する結果となったものの、このリベラル・リパブリカン党は政党制を大きく変化させる可能性を持っていた。実際、同党は民主党に全国綱領お

よび大統領候補を受け入れさせるというように、政党制に深刻な影響を与えたのである。本章では、その過程で二大政党の党内構造が変容し、民主党内が平時の争点を重視する方向で一致をみたのに対して、人種をめぐる争点についてすら緩やかな合意しなかった共和党が、平時の争点に関して深刻な内部対立を抱えるようになったことも明らかにした。

歴史分析の最後となる第5章では、1870年代半ばにかけて重要化した平時の争点の持ちえた影響がいかに減殺され、政党制の動的安定化が達成されたのかという、世紀末まで続く戦後体制の典型的な政治過程のパターンを抽出した。具体的には、禁酒法、8時間労働、鉄道規制、連邦財政という問題のいずれについても、特定の立場から改革を掲げる社会運動が第三党化した点に注目し、彼らがそれぞれの争点を元にした政党再編成を目指して政党制に挑戦しながらも、主要政党の対応によって挫折していった過程を明らかにした。

終章では、再建期を経て生み出された、政党制の動的安定性を特徴とする戦後体制が19世紀末まで維持されたことを、大統領、州知事、連邦議会下院議員という主要な公職の選挙結果を対象とする統計分析を通じて確認した。そのうえで、論文全体の議論をまとめ、その含意を元に確立後の二大政党制の安定性が20世紀を通じていかにして維持されたのかを概観して、本論文は締めくくられる。